

令和4年度
学校推薦型選抜
小論文問題

(時間 60分)

受験上の注意事項

- 【1】この問題冊子は、監督者の指示があるまで開いてはいけません。
- 【2】問題冊子の印刷が不鮮明な場合は、申し出てください。
- 【3】机上には監督者から指示のあるもの以外は、置いてはいけません。
- 【4】試験終了後は、小論文解答用紙を裏にして通路側に置いてください。
- 【5】試験終了後、解答用紙の回収作業が終了し、指示があるまで退室できません。
- 【6】この問題冊子と下書き用紙は、各自持ち帰ってください。

令和4年度
学校推薦型選抜
小論文問題
(時間 60 分)

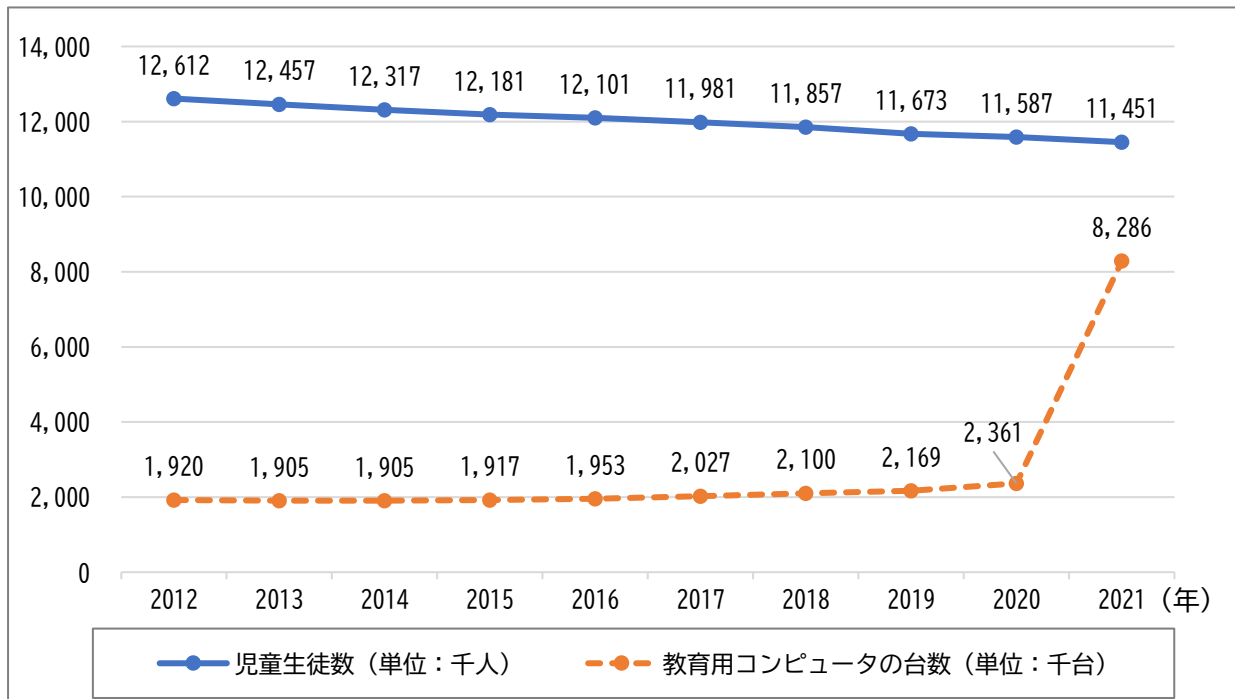
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大によって、学校教育の現場にも大きな影響が及んでいる。現時点ではこの感染症が収束しているとは言えず、非常時の対応として遠隔・オンライン教育を含む ICT(情報通信技術)などの活用をはじめ、学習機会を確保するための取り組みが試行錯誤のなかで始まっている。以下の資料1、資料2および資料3は、コロナ下における学校教育の現状について示したものである。これらの資料から読み取れることを述べなさい。また、ICT(情報通信技術)の活用による今後の課題について、資料から読み取った内容や自身の学習経験などを踏まえつつ、あなたの考えを述べなさい。

なお、文字数は300字以上600字以内、下記のキーワードを参考にしながら記述してもよい。誤字・脱字や常用漢字の不使用は、減点の対象となるので注意しなさい。

【キーワード】

一斉休校、学習意欲、主体的な学び、問題解決力、授業参加の実感、課外活動、生徒同士の交流、生活の乱れ、情報活用能力、情報セキュリティー、価値の創造、社会のデジタル化

資料1 教育用コンピュータの台数と児童生徒数



出典：e-Stat『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』より各年度「(1) コンピュータの設置状況等」を基に作成 (<https://www.e-stat.go.jp/>)。

注1. 児童生徒数は、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒数の合計を指している。

資料2 遠隔教育の実施状況

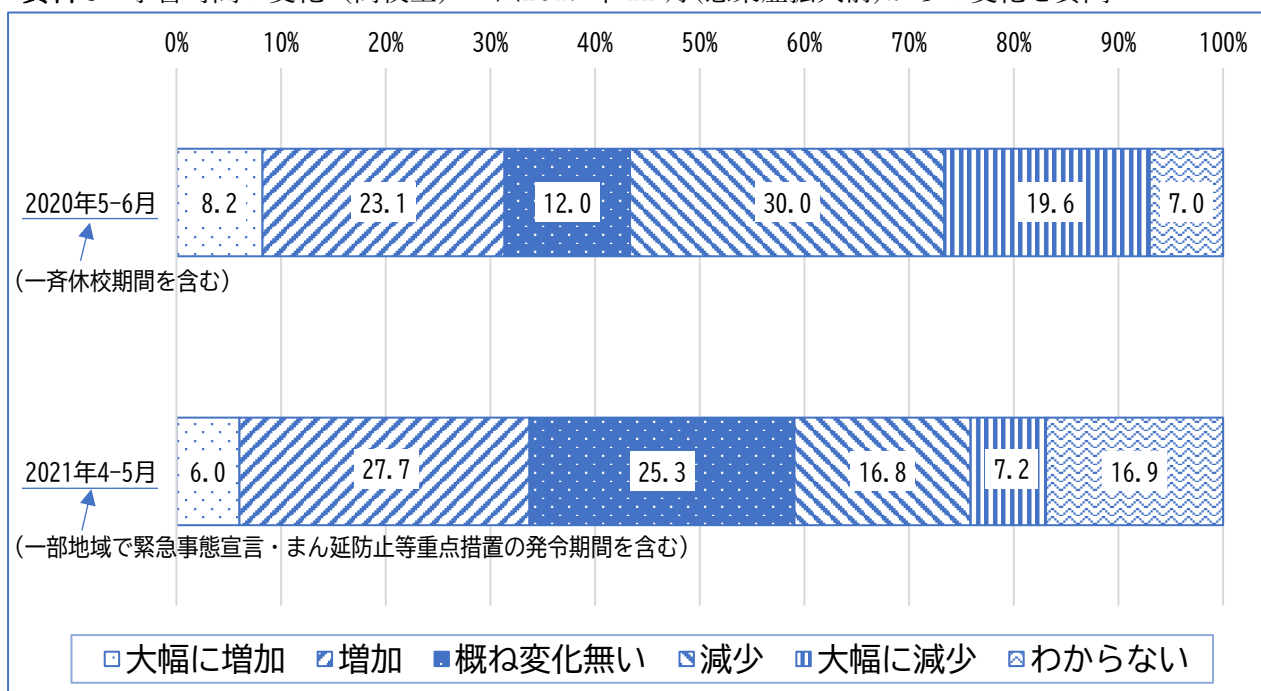
調査日	遠隔教育を実施している学校の割合(%)		遠隔教育実施の意向はあるが実施できていない割合(%)		遠隔教育を実施していない割合(%)	
	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年
小学校	7.5	25.8	12.5	21.1	80.0	53.2
中学校	6.3	23.2	11.5	21.8	82.2	55.0
義務教育学校	9.9	34.7	22.0	21.5	68.1	43.8
高等学校	7.9	34.6	9.8	17.2	82.3	48.2
中等教育学校	12.5	54.5	25.0	6.1	62.5	39.4
特別支援学校	19.6	51.0	13.3	13.3	67.2	35.7
合計	7.6	26.9	12.0	20.6	80.4	52.5

出典：e-Stat『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』より「令和元年度及び令和2年度、(9) 遠隔教育の実施状況」を基に作成 (<https://www.e-stat.go.jp/>)。

注1. 義務教育学校とは、小学校から中学校課程の9年間の義務教育を一貫して行う学校(小中一貫校)のことを指す。また、中等教育学校とは、中学校から高等学校課程の6年間を修業年限とする学校(中高一貫校のこと)を指す。

注2. 遠隔教育とは、ICT等の「遠隔システムを活用した同時双方向型で行う教育」のことを指す(文部科学省『遠隔教育の推進に向けた施策方針』)。

資料3 学習時間の変化(高校生) ※2019年12月(感染症拡大前)からの変化を質問



出典：『第3回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査』を基に作成 (<https://www5.cao.go.jp/>)。

注1. 新型コロナウイルス感染症拡大前に比べて、学習時間はどのように変化したのかという質問に対する各時点での高校生を対象にした全国調査に対する回答の割合を示している。